

くまもと古町地区実証実験
五感散歩 2024 秋

回シ || キャンパス

調査結果について

2024.11.23 (13時~16時)

(主催) 熊本市、一般社団法人KIMOIRIDON、熊本大学工学部土木建築学科、独立行政法人都市再生機構九州支社

1. 実証実験の内容(概要)
2. 当日の様子
3. 結果の概要
4. アンケート調査
5. 「考える」の実施・検証
6. 「周る」の実施・検証
7. まとめ

1.実証実験の内容(概要)

◆実験名称◆

くまもと古町地区実証実験＜五感散歩2024秋＞ ロジ・キャンパス

◆実施日◆

2024年(令和6年)11月23日(土)13:00-16:00

◆実施体制◆

4者主催:熊本市、一般社団法人KIMOIRIDON、熊本大学工学部土木建築学科、独立行政法人都市再生機構九州支社

1. 実証実験実施の意義

熊本市では、歴史的建造物が点在する景観を活かしつつ、新しい形でまちを持続的に発展させていくため、一町一寺の路地・寺社跡・町屋跡等の低未利用地のあり方を検討しているところ。

古町地区における将来的な豊かな暮らしの実現を目指し、低未利用地の増加に対する解決策の模索、ウォークブルなまちづくりに向けた取組みの一環として、古町独自の「賑わいのあり方」を見出し確認するために社会実験として実施。

2. 今回実験の目的

テーマ:「考える」・「周る」

令和4年度から継続して実施し、第5弾である今回の実験は、前回のテーマであるロジを「考える」を継続しながらロジを「周る」ことも追加して、まちづくりへの関心を高める内容を提案・実践。

「ロジ・キャンパス」と題し、路地の将来を考えるきっかけとなる熊大研究成果の発表、ルーテル大まち歩き、子供の遊び場、店舗出店を実施。これらにより、地域意向の把握を行い、社会実験継続に必要な人材・資金調達に向けた仕掛け、古町への興味のきっかけづくり、魅力の周知を行い、その効果を検証する。

くまもと古町地区実証実験
五感散歩 2024 秋

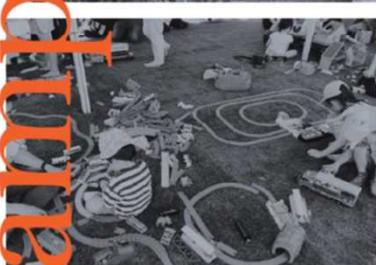
Roji-Campus

2024.11.23 (sat)

※雨天の場合は中止します。

13:00~16:00

※古町地区のロジ(路地)にて
「キャンパス」をテーマに様々な取り組みを行います!
■場所: 熊本市中央区中唐人町~魚屋町2丁目界限
11月2日(土)に予定していた内容から一部変更しています。



【主催】熊本市/一般社団法人 KIMOIRIDON/熊本大学工学部土木建築学科/独立行政法人都市再生機構九州支社

ロジ・キャンパス

ギャラリー

旧五福幼稚園遊戯室天井画
明治38年に描かれた
井沢鶴平氏の画を展示します

学食

カラフルコーヒー
凹凸タコス
ASIPA
陽月堂

エントランス

きよまさんぽ(まち歩き&スタンプラリー)受付
学生さんと一緒におしゃべりを
しながらお散歩します
スタンプを集めると参加賞をget!!

呉服町バス停
(バスターミナル方面)

呉服町電停
(駅方面)

■私たちの取り組み

本実験は、くまもと古町地区実証実験「五感散歩」の一環として、一町一寺の路地や寺社跡・町屋跡にある駐車場等の土地(ロジ)の活用を図り、古町の個性を維持しつつ、居心地のよい空間を創出することで将来的な豊かな暮らしの実現を目指した取り組みです。今回はロジを「考える」「周る」ことをテーマに実験に取り組みます。

STEP 1 ロジを知る ①R4.5/プレ実験	STEP 2 楽しむ・使う ②R4.11/150mのロジづくり ③R5.3/橋と桜とレンガ壁	STEP 3 考える ④R5.11/ロジ万博	STEP 4 周る・多用する	STEP 5 常用する
モニターがロジを巡っている様子 GOAL 早川倉庫 START PSオランジュリ “ロジ・リンク・シティ”プレ実験	来場者がロジでくつろいでいる様子 150mのロジづくり	実験の様子を30秒の動画で公開しています。 (熊本市公式 YouTube) 来場者がロジでくつろいでいる様子 150mのロジづくり	熊大の研究発表の様子 ロジ万博	

【来場者の皆さまへお願い】

- ・屋外ですので、特にお子様の防寒にご留意ください。
- ・来場者の駐車場はありません。
- ・お越しの際は、公共交通機関や周辺のコインパーキング等をご利用ください。

【当実験開催可否について】

- ・雨天中止となります。
- ・中止のお知らせは、前日の正午ごろ、熊本市のホームページ、熊本市都市デザイン課のInstagram(右記QRコードより)、五福まちづくり交流センター玄関へ掲載します。

【会場協力】
出田眼科病院/株式会社コナン・レクセル/大生ファミリー株式会社/藤丸邸

【運営協力】
株式会社urban direction/合名会社早川倉庫

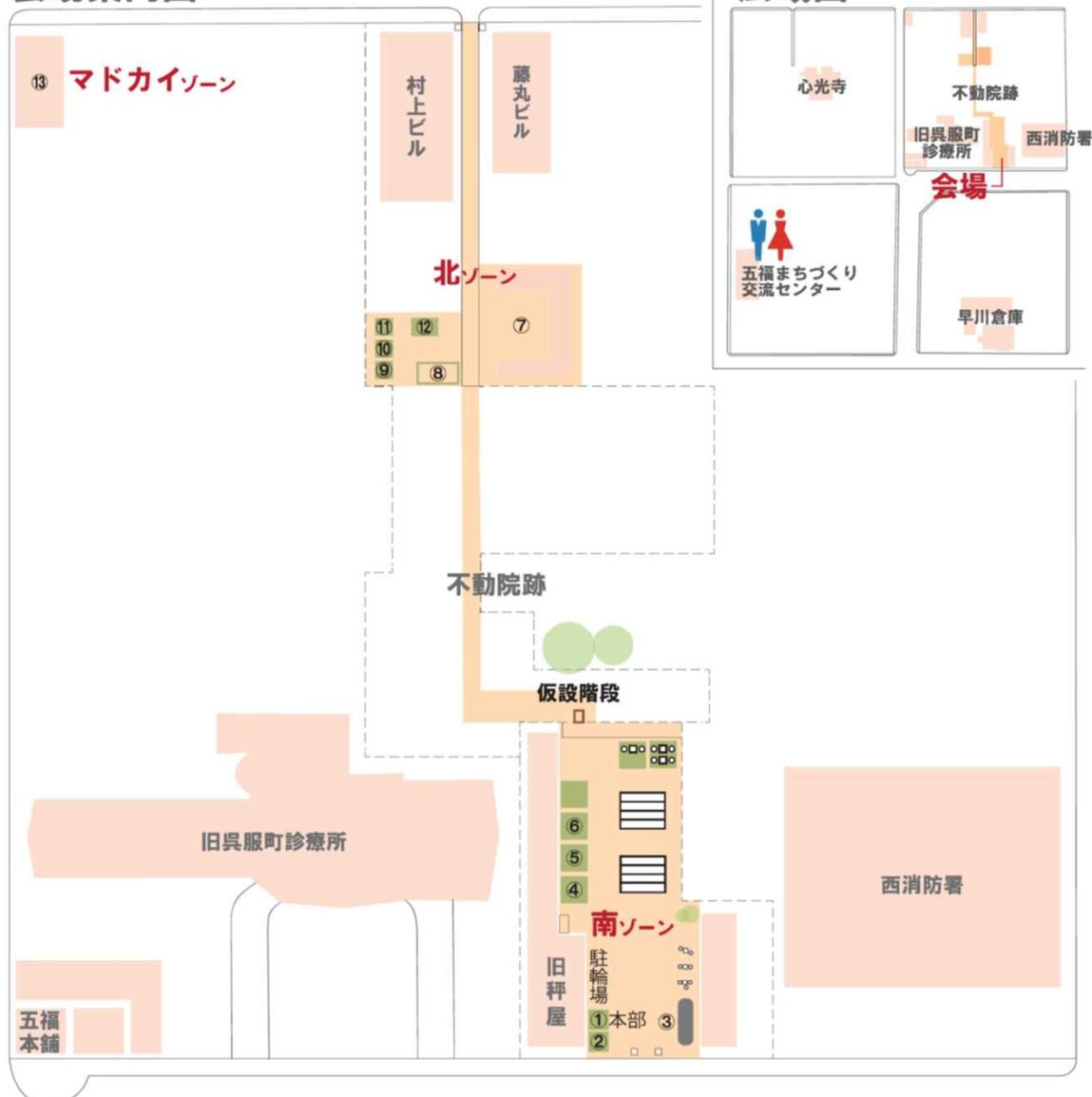
【プレイヤー協力】
九州ルーテル学院大学人文科学部本田研究室+有志/
熊本高専八代キャンパスNITKポランティアサークル/
熊本高専八代キャンパス建築社会デザイン工学科川口研究室/
熊本大学工学部土木建築学科星野研究室・本間研究室/
崇城大学工学部建築学科/ASIPA/colourful coffee/
株式会社キッシュコーポレーション/凹凸Tacos/陽月堂

【特別協力】
「ロジ・リンク・シティ」早稲田大学中智之教授

【関連専門家】
[写真ゼミ] 馬場浩流氏(写真家、日本大学芸術学部写真学科非常勤講師) /
熊本市子ども劇場/上村元三商店/ごぶく薬局

お問い合わせ 熊本市都市デザイン課 ☎ 096-328-2508 (担当三浦)

会場案内図



広域図



● 南ゾーン

- ① **本部**
インフォメーション、アンケート回収、参加賞授与など
- ② **きよまさんぼ・・・九州ルーテル学院大学人文学科本田研究室＋有志**
(まち歩き&スタンプラリー) 学生とおしゃべりしながらお散歩・スタンプ集めてお土産 get
- ③ **キッシュカフェ**
銀色のカッコいい車体が目印。カフェメニューでおくつろぎください
- ④ **塗り絵・・・五福小学校5年生**
小学生が作った塗り絵遊び
- ⑤ **工作・・・熊本大学教育学部**
学生さんと一緒に工作。何を作るかはお楽しみ!
- ⑥ **ボードゲーム・・・九州ルーテル学院大学人文学科本田研究室＋有志**
学生さんと一緒にボードゲーム遊び

● 北ゾーン

- ⑦ **VR シミュレーション・模型展示**
・・・熊本大学土木建築学科星野研究室＋本間研究室
不動院跡の利活用の提案を VR (仮想現実) で体験できます
- ⑧ **colorful coffee(カラフルコーヒー)**
自家焙煎したコーヒーをお楽しみいただけます
- ⑨ **陽月堂(ひづきどう)**
アンケートに答えるとわたがしをプレゼント!
- ⑩ **ASIPA(アジバ)**
スパイスカレー (サルカール・サグチキン)
- ⑪ **凹凸タコス(アウトツタコス)**
チキンケサディア (美味しいお肉ととろーりチーズ)
- ⑫ **テーブル席(飲食・休憩スペース)**
休憩・飲食などご自由にお使いください

● マドカイゾーン

- ⑳ **旧五福幼稚園遊戯室天井画展示**
明治 38 年に描かれた井沢鶴平氏の画を展示します。

● まちづくり募金(五感チップ)の取り組み

くまもと古町地区実証実験は、居心地のよい空間を創出することで、将来的な豊かな暮らしの実現を目指した取り組みです!

この取り組みにご賛同いただける方、これからもこの取り組みが続いて欲しいと思われた方は、まちづくり募金(五感チップ)にご協力をお願いします!

みなさまからの募金は今後の古町地区での実証実験の開催・運営に使わせていただきます。

アンケートへのご協力をお願いします!

本日の実証実験の取り組みについてアンケートを実施しています。

アンケートに回答いただいた方には粗品を差し上げます。

奮ってご参加ください!

2.当日の様子



【エントランス(きよまさんぽ)】
まち歩き&スタンプラリーで
古町地区を周る



【屋外教室】
工作体験や屋外ゲーム等



【ロジの風景】
肌寒い天気の中83名の方が来場



【研究室(VRシミュレーション・模型)】
仮想現実体験や模型を見て
不動院跡の利活用を考える



【学食】
コーヒーやタコスを手手に休憩・飲食



【ギャラリー(マドカイ)】
旧五福幼稚園遊戯室天井画を展示

3.結果の概要

○パンフレット配布数(≒来場者数):83※1

○アンケート回収数:52

○体験・取り組みの参加者:ギャラリー10、学食19、研究室15、屋外教室28、
エントランス16、カフェ14※2

○五感チップ(まちづくり募金):2,512円※3

※1 来場者1名につき1枚を配布。

※2 参加者数はアンケート結果から集計。複数回答可のため、重複あり。

※3 募金箱を会場内9箇所に設置。(募金の内訳:食堂600円、まち歩き&スタンプラリー350円、五福小5年生302円、工作300円、ボードゲーム150円、熊大土木建築310円、音楽100円、キッシュカフェ400円)

4. アンケート調査

【アンケート調査目的】

- ・ロジ・キャンパスの目的である「考える・周る」契機となったかの検証及び併せて確認できる事項について調査・分析を行い、今後の検討・実験に活用する。

【調査方法】

- ・中唐人町側と魚屋町側の出入口2箇所で見込みにて入場者に対しアンケート用紙を配布
- ・パンフレットは(子ども含め)入場者全員に配布
- ・アンケートは、各自現地にて記入いただき、魚屋町側の本部にて回収

【アンケートの検証内容】

- ・ロジ・キャンパスがまちについて考える・周る契機になったか
- ・古町地区に求められる使い方(機能)の把握
- ・古町地区への興味・思いの把握

【その他検証内容】

- ・来場者数集計
- ・活動資金の調達を目的としたまちづくり募金(五感チップ)
- ・テーマ「考える」「周る」に沿った大学によるコンテンツの実施



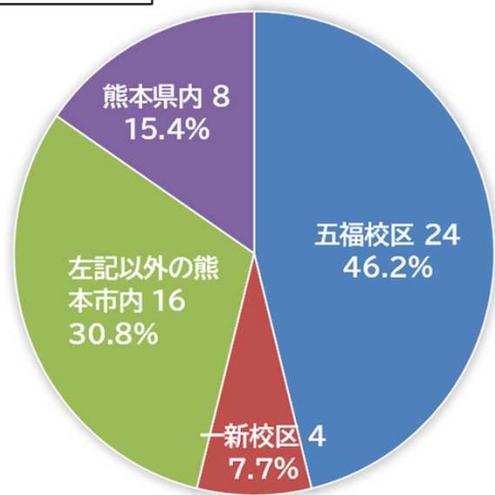
アンケート配布セット

来場者アンケートまとめ

【Q1】あなたのお住まいの地域はどこですか？

・居住地の割合は、「五福校区」(約5割)と「一新校区」(約1割)で半数以上を占めている。「慶徳校区」及び「熊本県外」からの来場者はいない。

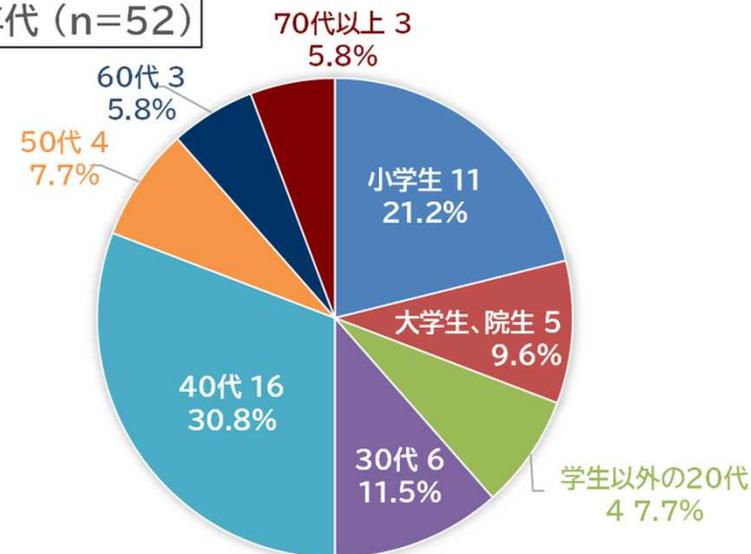
居住地 (n=52)



【Q2】あなたの年代を教えてください

・年代別の来場者は、「40代」(約3割)と「小学生」(約2割)で半数を占めている。
・「中学生」及び「高校生」の来場者はいない。

年代 (n=52)

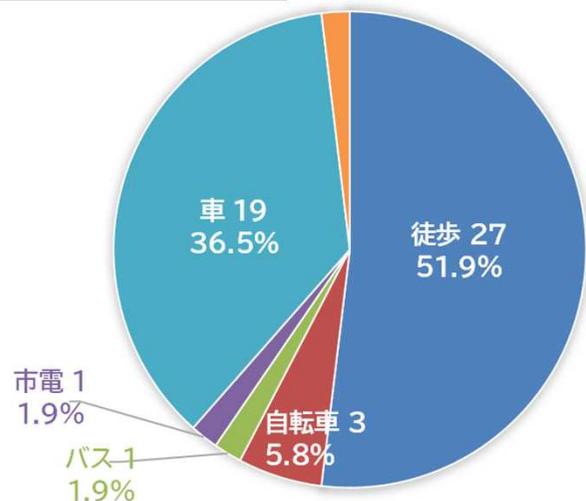


【Q3】主な来場手段は何ですか？

・来場者の半数以上が「徒歩」であり、五福・一新校区の住民が多く見受けられる。
・「車利用」は、市内および県内の居住者が多く、全体の約40%を占めている。
・「バス」・「市電」の公共交通は、市内居住者が利用しているが利用率は約4%と低い。

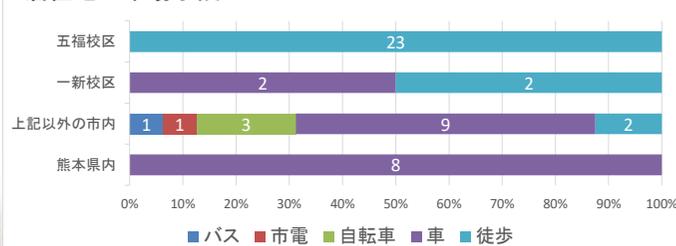
来場手段 (n=52)

未回答 1
1.9%



居住地 × 来場手段

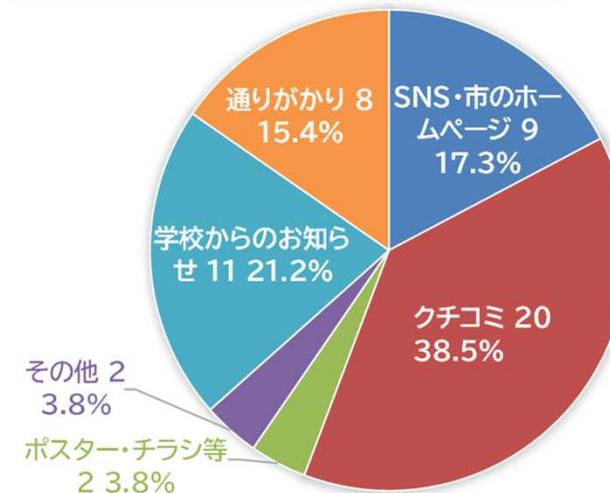
※慶徳校区、熊本県外の回答者なし



【Q4】本日の実証実験を何で知りましたか？

・実証実験を知ったきっかけは、「クチコミ」が最多の約4割、「学校からのお知らせ」と「SNS・市のホームページ」がそれぞれ約2割となっている。

知ったきっかけ (n=52 複数回答)

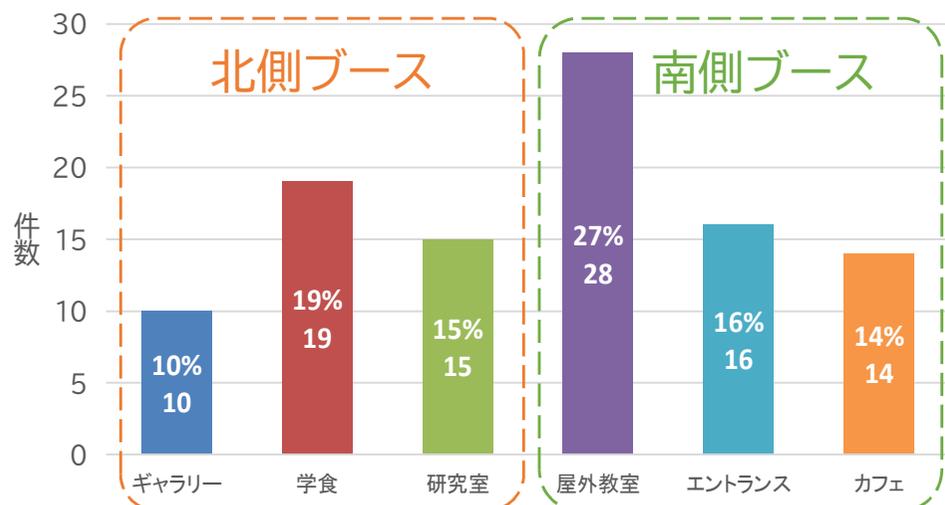


※データラベル: 項目名, 回答数, 回答割合

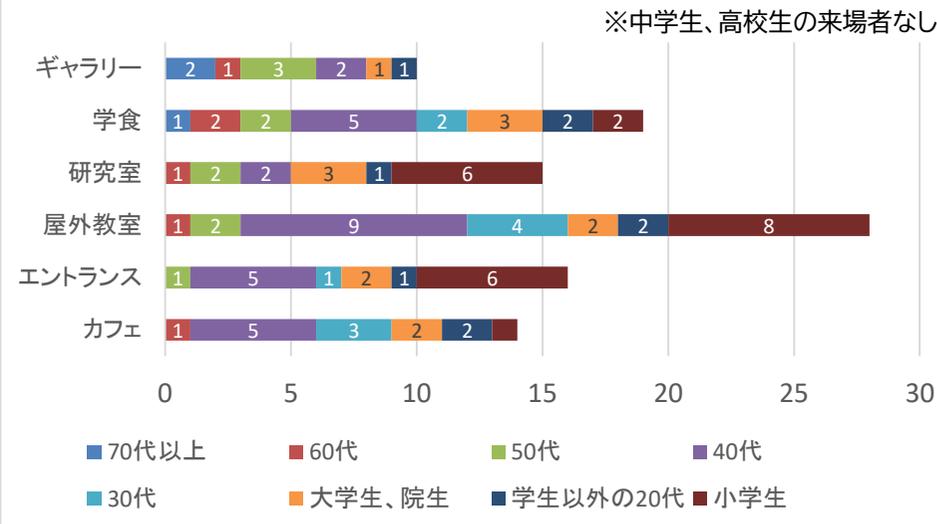
【Q5】本日、体験またはご覧になった取り組みを教えてください。

- 体験ブースは、「屋外教室」が約3割と最も多く、次いで「学食」の約2割、「研究室」、「エントランス」、「カフェ」はそれぞれ15%前後の利用となった。
- 「屋外教室」(工作・ボードゲーム)と「エントランス」(まち歩き&スタンプラリー)は、「40代」と「小学生」の参加割合が高く、親子で来場されたと推測される。
- ブース毎の利用者は、北側のみ利用が約2割、南側のみ利用が約4割とバラつきが見られた。
- 来場者の約4割が南北を行き来しながらブースを利用してあり、通り抜けを可能にしたことによる効果が見受けられた。

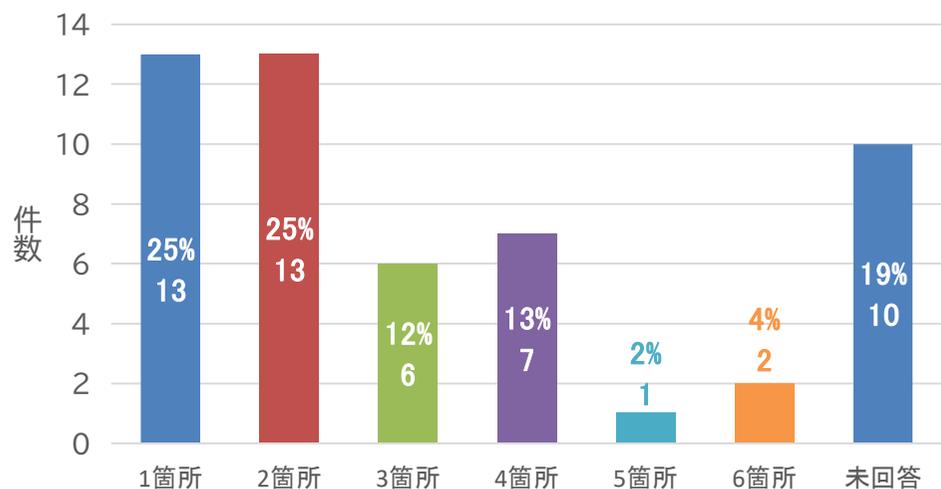
体験・ご覧になった取り組み(n=42 複数回答) ※未回答除く



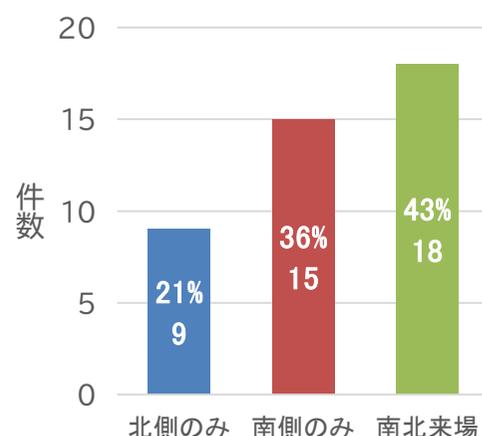
取り組み内容×年代(n=52 複数回答)



開催ブースへの立ち寄り集計(n=52)



南北ブース来場集計 (n=42) ※未回答除く

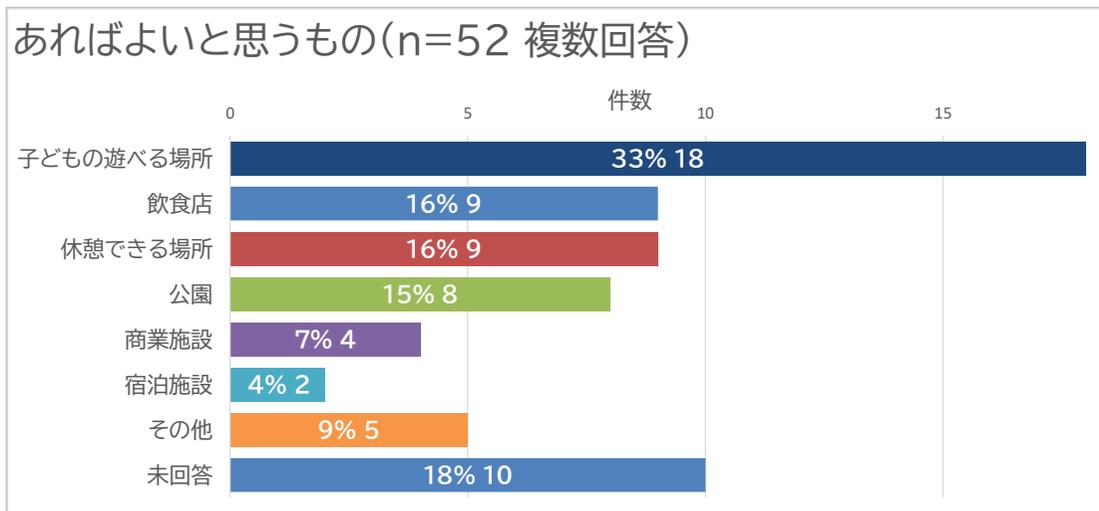


【Q6】古町地区にこういったものや場所があればよいと思いますか？ ()内は件数

- 「こどもの遊べる場所」の意見が33%と最も多く、公園の15%を含めると約半数の来場者が必要性を感じている。
- 「休憩できる場所」・「飲食店」はそれぞれ16%、商業施設7%、宿泊施設4%等を望む意見があった。
- その他、「町のあちこちを見て歩きたくなるような、クスツと笑えるしかけ」があるとよいとの意見があった。

区分	主な記述内容
子どもの遊べる場所 (18)	子どもの遊べる場所(17)
	子ども達と一緒に活動出来る場所があればいい
飲食店 (9)	カフェ(4)
	食べ歩きのできるお店やスペースがあるとよい
	ゆっくりランチのできる場所
	おしゃれなカフェ、夜はオープンテラスバーなど
	子ども食堂
	食べ物、ランチ、ディナー
休憩できる場所 (9)	休憩できる場所があるとよい(7)
	子どもの遊びを見守れる大人の休憩スペース
	休けい、こどもあそべる、本よめる
公園 (8)	公園(4)
	子供の安心して遊べる場所、公園、広場など
	ピクニックできる公園
	芝生の公園 大人・子ども問わず立ち寄りたくなる様な癒しの場所(公園賑い施設)
商業施設 (5)	商業施設(4)
	集客を目的とした店があれば、古町のよさを広めることができる

区分	主な記述内容
宿泊施設(2)	宿泊施設(2)
その他 (5)	自習室、カフェ
	本屋さん
	住民の交流の場
	地域とつながれる場所 町のあちこちを見て歩きたくなるような、クスツと笑えるしかけ



【Q7】「五感チップ」の取り組みについてご賛同いただけましたか？ ()内は件数

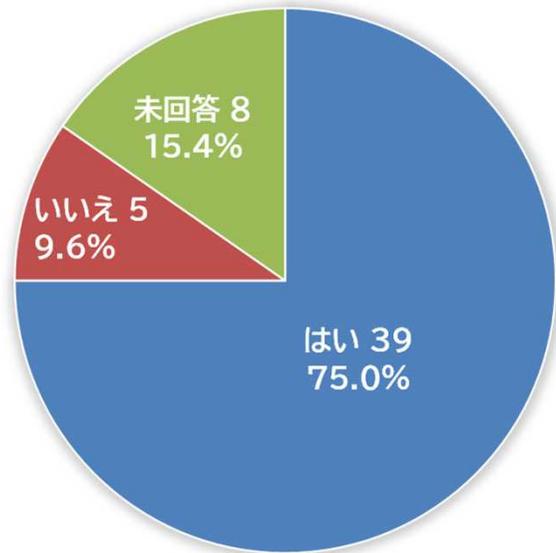
【結果・考察】

○五感チップの取り組みについては、75%が賛同、約10%が賛同していない。

○体験に対する対価を気軽に支払える点が高く評価されている。

区分	主な記述内容(原文ママ)
はい (39)	たくさん体験できるからいいと思う
	気がるにほきんできてよい
	子どもたちにいろいろな体験をさせてもらったので
	古き良を現代の型で再活用されているので良いと思います
	チップをはらうことによって、その事業へ愛着が湧く
いいえ (5)	Doをやった方が早い、未来はわからないから (文脈から寄付「ふるさと納税do(ふるさと納税業務管理システム)」の事と推測)

「五感チップ」に賛同いただけましたか(n=52)



5. 「考える」の実施・検証

不動院跡の利活用を「考える」(熊本大学土木建築学科)

■実施概要

ロジの将来を考えるきっかけとしてもらうことを目的に、熊本大学土木建築学科による「不動院跡の利活用」をテーマにしたVR体験と模型展示を実施。2班に分かれ検討した利活用案を来場者に提案した。



VRでは実際の建築物の大きさを360°で体感することができます。

AR,VRなどのツールを使うことで専門的な知識がなくても詳しい作り方を学ぶことができます。

～各班の提案～

いっちょういちじ

【1班】「一町一持」

区画の中央に地域住民の「手」で新たな「持(てら)」をつくり、地域の人が集う拠点の再構築を行う計画



VR体験の様子



【2班】「一町一庭」-唐人町再編計画-
「通り庭」「裏庭」「中庭」の機能を配置し、むかしの「一町一寺」を、これからの「一町一庭」として再編する計画



模型展示

不動院跡の利活用を「考える」(熊本大学土木建築学科)

■熊大によるアンケート調査について

Google フォームを用いて体験者にアンケートを実施。テーマに基づくアンケート内容は以下の2点。

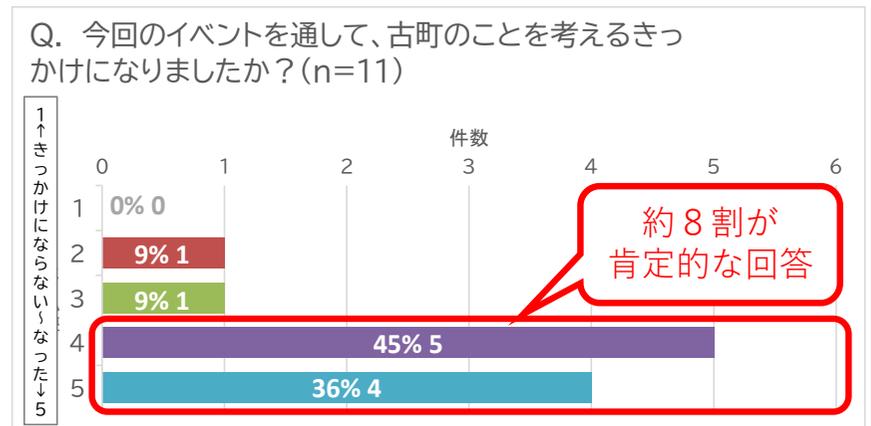
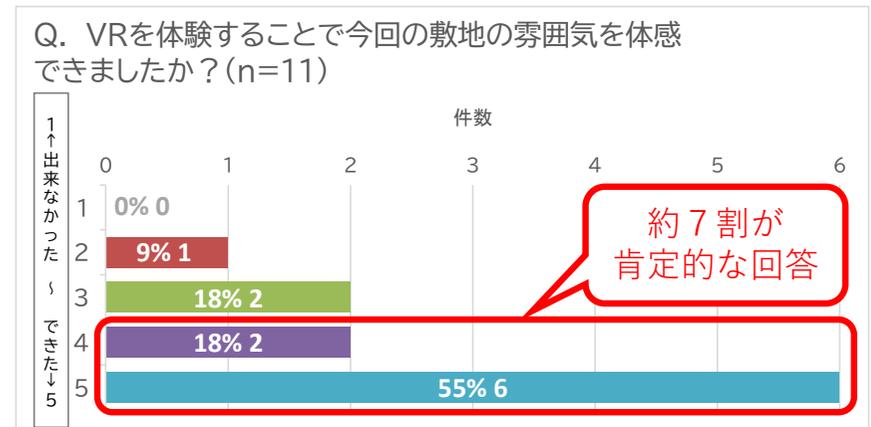
- ・VRを体験することで今回の敷地の雰囲気を感じられたか
- ・古町のことを考えるきっかけになったか

■結果・考察

回答者11名のうち、約7割から「敷地の雰囲気を体感できた」、約8割から「考えるきっかけになった」との肯定的な回答を得た。その他の主な意見は以下のとおり。

- ・「現地でVRを見れてわかりやすかった」
- ・「実際にその場にいるような感覚になった」
- ・「模型で見たものをVRを通じて人の目線で見ることができるのがとても良いと思った」
- ・「一町一寺を考えるきっかけになった」
- ・「大学や学生が継続的にまちについて考える機会と
なって良い」
- ・「とうとう来たかと思った」

現地でのVR体験や模型展示により、不動院跡の使われ方について視覚的なイメージがしやすく、利活用の在り方について考えるきっかけに繋がったと考えられる。



6. 「周る」の実施・検証

古町地区のロジを「周る」(九州ルーテル学院大学人文学科+有志)

■実施概要

古町の歴史的町並みや建造物を周る(まち歩きする)ことで、古町の歴史や文化を学びながら魅力を知ってもらうことを目的に、九州ルーテル学院大学本田研究室と有志による「まち歩き&スタンプラリー」を実施。

対象は小学生とし、スタンプラリーで周る場所は、古町の魅力として知ってもらいたい場所を大学生が検討。




①明八橋



②心光寺



③早川倉庫

古町地区のロジを「周る」(九州ルーテル学院大学人文学科+有志協力)

■当日の様子

スタンプラリー地点は、時間の関係上、当初予定の3か所から2か所(①明八橋、②心光寺)に限定。

大学生と会話しながら古町地区をまち歩きし、身近にある歴史や文化を感じながら古町の魅力を知ってもらった。

■結果・考察

小学生ペアや小学生の親子など、5組10名に参加いただいた。

参加者の意見として、まち歩き中の小学生からは「友達と遊ぶときに通る道」「家族で来たことがあるお店」「いつもの通学路」といった声が聞かれ、日常的に利用している古町の場所や街並みの印象が残っていることが確認できた。

この取組みの継続は、古町への理解を深めてもらうきっかけとして有効であると考えられる。



7.まとめ

	結果	考察	今後の課題・やり残したこと
体験した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して「屋外教室」の体験者が約3割と最も高い ・南北ゾーンにおいて、両方とも利用した人は約4割にとどまった 	<ul style="list-style-type: none"> ・「屋外教室」の利用割合の高さから、子どもの遊び場が望まれていることが推察できる ・高低差がある南北の通り抜けを仮設階段により可能にしているものの、お年寄りからは仮設階段の利用が難しいとの意見があったことから、南北の体験者数の偏りの一因と考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・南北高低差における通り抜けのハードルを緩和し、誰でも通り抜け可能にする工夫
古町に求められている機能の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの遊べる場所」が約3割、「飲食店」「休憩できる場所」「公園」が約2割となった ・「まちのあちこちを見て歩きたくなるようなクスッと笑える仕掛け」など 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども達と一緒に活動出来る場所があればいい」などの意見があったことから、大人も子どもも利用できるような施設や空間が望まれていると考えられる ・古町地区を見て歩きたくなる仕掛けづくりが求められていると考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や広場など、大人も子どもも利用できる場所づくり ・古町地区を見て歩きたくなる仕掛けづくりの検討
活動資金の徴収試行	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者のうち約9割が「五感チップ」に賛同し、理由として「気軽に募金できる」、「事業への愛着が湧く」などが挙げられた ・「ふるさと納税do(ふるさと納税業務管理システム)」を提案する意見もあった 	<ul style="list-style-type: none"> ・「五感チップ」に対する来場者の賛同割合は非常に高く、理解を得やすい取り組みであると考えられる ・他方、ふるさと納税やクラウドファンディングなどのその他の徴収方法の可能性検証も必要と考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動資金の徴収に対するさらなる理解醸成 ・多様な資金調達の仕組みの検討
社会実験全般の考察	<ul style="list-style-type: none"> ・熊大コンテンツのVR体験では、不動院跡の雰囲気を感じてきた割合が7割を超えており、今後、古町の将来を検討していくうえでVRの活用は有効だと考えられる ・地域からの来場者が半数を占めており、継続的な取り組みの結果、社会実験が地域に根づいていると推察でき、小学生の親子世代に喜んでもらえる内容であったと考えられる ・古町地区を学生と周ることで、参加者は古町地区を知り郷土意識の向上が図れたのではないかと考えられる ・前回と比較して来場者が減少したのは、開催日直前での雨天延期、及びそれに伴い周辺病院の休診日と重なったこと、その他、実施内容の一部縮小や、実施時間の短縮化が要因と思われる 	<ul style="list-style-type: none"> ・VRのさらなる有効活用 ・小学生の親子世代に望まれる内容の継続的な実施 ・歩きたくなる仕掛けによる、参加者が古町の郷土意識をさらに向上できるようなコンテンツの実施 ・周辺施設の営業状況を踏まえた開催日での実施 	